



新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ

マスネ

ウェルテル

Werther / Jules Massenet

2026年5月24日(日)～ 5月30日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2026年3月15日(日) 10:00～前売開始



『ウェルテル』 2016年公演より

愛の歓び、そして苦しみ—文豪ゲーテの傑作をオペラ化した珠玉のフランスオペラ

多感な青年ウェルテルの叶わぬ恋、そして憧れと絶望を文豪ゲーテが描いた『若きウェルテルの悩み』が、マスネならではの色彩豊かな音楽でオペラ化された珠玉のフランスオペラ。シャルロットの「手紙の歌」、ウェルテルの「オシアン」の詩(春風よ、なぜ目を覚まさせるのか)など、コンサートで歌われることも多い美しいアリアも魅力。ニコラ・ジョエルの演出は、ゲーテの原作の世界を具現化したような美しい舞台と正統派のアプローチで評判となったもの。第1幕では自然の繊細な美しさ、終幕では逃れようのない閉塞感の中で愛の苦悩が語られ、観る者の心を揺さぶります。

世界的スターのカストロノーヴォ×脇園彩！最高のペアが魅せる美しき悲恋

ウェルテル役には、リリック・テノールの世界的スター、チャールズ・カストロノーヴォが待望の新国立劇場デビュー！シャルロットには、ベルカントからドラマティックな役ヘレパトリを拓げ、世界の著名歌劇場を席卷中の脇園彩が出演します。指揮には『エウゲニ・オネーギン』『椿姫』の繊細なアプローチで共感呼んだアンドリー・ユルケヴィチが登場します。

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail:takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp

愛の喜び、そして痛み 詩人ウェルテルの美しくも叶わぬ恋の物語



多感な青年ウェルテルとシャルロットの成就することのない恋を描いた文豪ゲーテの『若きウェルテルの悩み』を、フランス・ロマン派の作曲家マスネがオペラ化した作品。“ウェルテル効果”といわれた社会現象を引き起こすほどの大人気小説であった『若きウェルテルの悩み』が、マスネならではの色彩豊かな音楽でオペラ化されています。シャルロットの「手紙の歌」、ウェルテルの「オシアン詩（春風よ、なぜ目を覚まさせるのか）」など、ガラ・コンサートなどで独立して歌われることも多いドラマティックなアリアも魅力。フランスオペラの代名詞と言える作曲家マスネの中でも、『マノン』と並び世界的に上演の多い人気オペラです。ニコラ・ジョエルの演出は、ゲーテの原作の

世界を具現化したような美しい舞台と正統派のアプローチで評判となったもの。第1幕では自然の繊細な美しさが、終幕では逃れようのない閉塞感が観る者の心を揺さぶります。

巨匠ニコラ・ジョエル演出版は、美しく写実的な舞台美術が大きな見どころ。ウェルテルの心情に寄り添い、彼が自然を称える冒頭シーンでは18世紀ドイツ・ヴェツラーの町の禁欲的な建築の狭間に大樹を投影。重厚な建物と輝かしい新緑の対比の美しさ、繊細な木漏れ日に劇場じゅうが包まれるような照明の効果が観客をあっと思わせました。幕が進むにつれ、季節の移ろいを描写すると共に、舞台は徐々に閉塞的になり、苦悩するシャルロットの息詰まるような部屋に続いて、最終幕では天井まで及ぶ書棚に覆われたウェルテルの書斎が彼の最期の場となります。伝統的でありながら格調高く洗練された美術は、ロマン主義的な自然や自由、美への憧れと社会との葛藤を雄弁に伝え、大きな話題となりました。美術や映像に興味のある方にもぜひ観ていただきたい舞台です。



カストロノーヴォ、脇園彩、須藤慎吾、砂田愛梨！いま話題の歌手による『ウェルテル』



C.カストロノーヴォ

脇園 彩

注目のタイトルロールウェルテルには、リリック・テノールの世界的スター、チャールズ・カストロノーヴォが待望の新国立劇場デビュー。情熱的な表現でメトロポリタン歌劇場など各地の観客を魅了するスターの登場です。愛と規範の狭間で苦悩するシャルロットには、ベルカントからドラマティックな役へとレパートリーを拡げ、その成熟が世界的に話題となっている脇園彩が出演。今注力しているというフランスオペラを、東京のファンの前で歌うこととなります。シャルロットの夫アルペールには国内きってのスケールのバリトン須藤慎吾、シャルロットの妹ソフィーには、大躍進中の砂田愛梨が出演します。指揮には『エウゲニ・オネーギン』『椿姫』の繊細なアプローチで共感を呼んだアンドリー・ユルケヴィチが登場します。



左上より A.ユルケヴィチ、N.ジョエル、C.カストロノーヴォ、脇園 彩、須藤慎吾、砂田愛梨、伊藤貴之、村上公太、駒田敏章

<「ウェルテル」あらすじ>

若き詩人ウェルテルは、シャルロットに恋心を抱くが、彼女に婚約者がいることを知り絶望する。数か月後、アルペールと結婚したシャルロットに、ウェルテルは再び愛を告白するが、シャルロットは彼に街を去るように言う。クリスマス・イブの夜、ウェルテルからの手紙に心乱れるシャルロットの前にウェルテル本人が現れ、激しく求愛し彼女を抱きしめる。やっとの思いでシャルロットは抱擁を逃れ、永遠の別れを告げる。絶望したウェルテルは自ら命を絶つ。



新国立劇場オペラ「ウェルテル」ダイジェスト映像

<https://www.youtube.com/watch?v=2BaMc1MHKgE>

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】アンドリー・ユルケヴィチ

Andriy YURKEVYCH

ウクライナ出身。22年よりプラハ国立歌劇場音楽監督。リヴィウ音楽大学を卒業し、シエナのキジアーナ音楽院でゼツダ、ジェルメッティのもとで学ぶ。リヴィウ歌劇場常任指揮者となった後、ウクライナ国立オデッサ歌劇場、モルドバ国立歌劇場、ポーランド国立歌劇場音楽監督を歴任。05年ローマ歌劇場へデビュー。その後モンテカルロ歌劇場、モネ劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、チリ・サンチャゴ市立劇場、ギリシャ国立歌劇場などへ招かれる。最近ではジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場、ポローニャ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』、ポローニャ歌劇場、ハンガリー国立歌劇場、テネリフェ歌劇場『ルクレツィア・ボルジア』、ダルムシュタット歌劇場、ヴェローナ歌劇場、ニース歌劇場『ルチア』、カルロ・フェリーチェ歌劇場『道化師』、モルドバ国立歌劇場『椿姫』、ニース歌劇場『蝶々夫人』、プラハ国立歌劇場『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』『椿姫』『蝶々夫人』『ナブッコ』『ロメオとジュリエット』『トスカ』『アイダ』『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』などを指揮している。新国立劇場では19年『エウゲニ・オネーギン』、22年『椿姫』を指揮した。



【演出】ニコラ・ジョエル

Nicolas JOEL

パリ出身。1973年から78年までストラスブルール・ラン歌劇場で演出アシスタントを務めた後、79年にラン歌劇場とリヨン歌劇場で「ニーベルングの指環」で演出家としてデビューした。90年から2009年までトゥールーズ・キャピトル劇場の芸術監督、09年から14年までパリ・オペラ座総監督。ウィーン国立歌劇場『アイダ』、サンフランシスコ・オペラ『サムソンとデリラ』、デンマーク王立歌劇場『ローエン格林』、オランダ国立オペラ『エウゲニ・オネーギン』『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』、チューリヒ歌劇場『リゴレット』『椿姫』『運命の力』、ミラノ・スカラ座『つばめ』『マノン』、英国ロイヤルオペラ『ロメオとジュリエット』、メトロポリタン歌劇場『アンドレア・シェニエ』など多くの話題作を手がけた。オランダ音楽祭では『さまよえるオランダ人』『ナブッコ』『アイダ』『オテロ』『カルメン』『ロメオとジュリエット』などを続けて演出、成功を収めた。またトゥールーズ・キャピトル劇場在任中は『イル・トロヴァトーレ』『ファルススタッフ』『エレクトラ』『エウゲニ・オネーギン』『リゴレット』『ロメオとジュリエット』などを演出。パリ・オペラ座をはじめ各地で『ロメオとジュリエット』『トゥーランドット』『タイス』『ラ・ジョコンダ』『シチリア島の夕べの祈り』『ディドとエネアス』『ファウスト』などの作品が上演されている。2020年6月逝去。



【ウェルテル】チャールズ・カストロノーヴォ(テノール)

Charles CASTRONOVO

ニューヨーク出身。同世代で最も優れたリリック・テノールのひとりとして国際的に高く評価される。ロサンゼルス・オペラと契約しキャリアをスタートした後、メトロポリタン歌劇場リンデマン若手芸術家育成プログラムに参加。1999年、『道化師』プレミエのベッペ役でメトロポリタン歌劇場デビュー。英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、テアトロ・レアル、ベルリン・ドイツ・オペラ、モネ劇場、バイエルン州立歌劇場、リセウ大劇場、サンフランシスコ・オペラ、シカゴ・リリック・オペラなど、世界有数の歌劇場で活躍中。24/25シーズンはバレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿『マノン』デ・グリユー、チューリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場『仮面舞踏会』リッカルド、パリ・オペラ座『ドン・カルロス』タイトルロール、英国ロイヤルオペラ『カルメン』ドン・ホセ、バイエルン州立歌劇場『群盗』カルロに出演。24年ミュンヘン国立管弦楽団と録音した『I Canti』でオーパス・クラシック賞受賞。新国立劇場初登場。



【シャルロット】脇園 彩(メゾソプラノ)

WAKIZONO Aya

東京生まれ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。2013年文化庁派遣芸術家在外研修員としてパルマ国立音楽院に留学。ペーザロのロッシーニ・アカデミー及びミラノ・スカラ座アカデミー修了。ミラノ・スカラ座をはじめ、パレルモ・マッシモ劇場、テアトロ・レアル、マインツ州立劇場、ベルギー・ワロン歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに多数出演。日本では17年藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナでオペラデビュー。ポローニャ歌劇場来日公演『ノルマ』アダルジーザも絶賛された。24年はジュネーヴ大劇場でドニゼッティ『ロベルト・デヴェリユー』サラ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルで『ビアンカとファッリエーロ』ファッリエーロ、パレルモ・マッシモ劇場で『イングランドの女王エリザベッタ』エリザベッタにそれぞれタイトルロールデビューし絶賛される。25年にはスカラ座『チェネントラ』タイトルロール、ポローニャ歌劇場『セビリアの理髪師』ロジーナなどに出演。イタリアを拠点に活動し、世界中から注目されるアーティストのひとり。第52回ENEOS音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。新国立劇場へは19年『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラでデビューし、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『チェネントラ』タイトルロール、『ファルススタッフ』ページ夫人メグに出演し喝采を浴びる。26/27シーズン『ばらの騎士』オクタヴィアンにも出演予定。



【アルベール】須藤慎吾(バリトン)

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊声楽コンクール第1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位(イタリア)などを受賞。1999年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。2006年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では『椿姫』ドゥフォーール男爵/ジェルモン、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、『ルチア』エンリーコ、『アイダ』アモナズロ、『リゴレット』モンテローネ伯爵、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『シモン・ボッカネグラ』ピエトロ、『ウィリアム・テル』ヴァルテル・フルスト、鑑賞教室『トスカ』スカルピア、鑑賞教室『カルメン』エスカミーリョなど主要な役で出演を重ねる。26/27シーズンは『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオに出演予定。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。

SUDO Shingo**【ソフィー】砂田愛梨(ソプラノ)**

東京音楽大学卒業及び同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所修了。在籍中ANAスカラシップによりミラノ・スカラ座アカデミー、バイエルン州立歌劇場オペラ研修所にて研修。文化庁新進芸術家海外研修員、五島記念文化賞オペラ新人賞によりスイス、イタリアで研修。S.リチートラ国際コンクール第2位、G.パスタ国際コンクール及びKoliqi賞国際コンクール第3位、F.リッチ国際コンクール特別賞、イタリア声楽コンクールミラノ大賞第1位、日本音楽コンクール及び日伊声楽コンクール第3位、東京音楽コンクール第2位など受賞多数。2022年サッサリ歌劇場『ドン・パスクワレ』ノリーナ役でデビュー後、コゼンツァ・レンダーノ劇場、ミラノ・カルカノ劇場、サルザーナ・オペラ・フェスティバルなどで『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『リゴレット』ジルダ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ラ・ボエーム』ムゼッタの役で出演を続けている。日本では2024年11月、日生劇場『連隊の娘』マリー役で本格デビュー。現在、イタリアと日本を拠点に活動している。ミラノ在住。新国立劇場公演へは『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタに出演。26/27シーズンは『ファルスタッフ』ナンネッタに出演予定。

SUNADA Airi**【大法官】伊藤貴之(バス)**

名古屋芸術大学卒業、同大学院修了。奨学金を得てイタリアで研鑽する。第48回日伊声楽コンクール2位や第6回G.ゼッカ国際声楽コンクール第2位入賞するなど受賞歴多数。近年は日生劇場開場60周年記念公演『メディア』クレオンテ、『マクベス』バンクォー、藤沢市民オペラ『魔笛』ザラストロ、藤原歌劇団『ファウスト』メフィストフェレス役で出演しいずれも好評を博す。新国立劇場では『サロメ』兵士2、『オテロ』モンターノ、『カルメン』スニガ、『ウェルテル』大法官、『ルチア』ライモンド、『ホフマン物語』ルーテル/クレスペル、『アイダ』エジプト国王、鑑賞教室『蝶々夫人』ボンゾ、鑑賞教室『ラ・ボエーム』コッリーネなどに出演。『第九』やヴェルディ『レクイエム』などのソリストとしても活躍している。平成24年度愛知県芸術文化選奨「文化新人賞」を受賞。藤原歌劇団団員。

ITO Takayuki**【シュミット】村上公太(テノール)**

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラに立て続けに客演し好評を博す。東京二期会『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロート、『椿姫』アルフレード、日生劇場『後宮からの逃走』ペドリッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、サントリーホール『リトゥン・オン・スキン』第3の天使/ヨハネ、グランドオペラ共同制作『カルメン』レメンダード、横須賀芸術劇場『リゴレット』マントヴァ公爵などに出演。新国立劇場では『こもり』アルフレード、『カルメン』レメンダード、『ファルスタッフ』フェントン、『夏の夜の夢』ライサンダー、『イオランタ』アルメリック、『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』クンツ・フォーゲルゲザング、『蝶々夫人』ピンカートン、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』ドン・ホセ、同『蝶々夫人』ピンカートン、同『トスカ』カヴァラドッシなどに出演。26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』ホレーヌ・アダムス、『ファルスタッフ』フェントン、『マクベス』マルコム、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026ルームシアター京都公演『蝶々夫人』ピンカートンに出演予定。二期会会員。

MURAKAMI Kota

【ジョアン】駒田敏章(バリトン)**KOMADA Toshiaki**

愛知教育大学を経て東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期生としてオペラを学ぶ。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教師などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンに留学。2012年オランダ・フローニンゲンで開催された音楽祭にラヴェル『スペインの時』ラミーロで出演し、Labberte-Hoedemaker Awardを受賞。第83回日本音楽コンクール(歌曲)第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアン、『ジュリオ・チェーザレ』クーリオ、『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチ/役人、『ラ・ボエーム』ショナール、『トリスタンとイゾルデ』舵取り、高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『魔笛』パパゲーノに出演。25/26シーズン『ヴォツェック』タイトルロールに急遽出演し、絶賛された。26/27シーズンは『道化師』シルヴィオに出演予定。



新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ
マスネ
ウェルテル
Jules Massenet / Werther
全4幕〈フランス語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】 2026年5月24日(日)14:00／26日(火)14:00／28日(木)18:00／30日(土)14:00

【会場】新国立劇場オペラパレス

【チケット料金】 S:26,400円・A:22,000円・B:15,400円・C:9,900円・D:6,600円・Z:1,650円

【前売開始】 2026年3月15日(日)

※予定上演時間 約3時間10分(休憩含む)

指揮	アンドリー・ユルケヴィチ	ウェルテル	チャールズ・カストロノーヴォ
Conductor	Andriy YURKEVYCH	Werther	Charles CASTRONOVO
演出	ニコラ・ジョエル	シャルロット	脇園 彩
Production	Nicolas JOEL	Charlotte	WAKIZONO Aya
美術	エマニュエル・ファーヴル	アルベール	須藤慎吾
Set Design	Emmanuelle FAVRE	Albert	SUDO Shingo
衣裳	カティア・デュフロ	ソフィー	砂田愛梨
Costume Design	Katia DUFLOT	Sophie	SUNADA Airi
照明	ヴィニチオ・ケリ	大法官	伊藤貴之
Lighting Design	Vinicio CHELI	Le Bailli	ITO Takayuki
再演演出	澤田康子	シュミット	村上公太
Revival Director	SAWADA Yasuko	Schmidt	MURAKAMI Kota
		ジョアン	駒田敏章
		Johann	KOMADA Toshiaki
		ブリュールマン	水野 優
		Brühlmann	MIZUNO Yu
		ケツェン	肥沼諒子
		Kätchen	KOINUMA Ryoko

合唱指揮	平野桂子
Chorus Master	HIRANO Keiko
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
児童合唱	世田谷ジュニア合唱団
Children Chorus	Setagaya Junior Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra
芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/werther/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

- * Z席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。
- * 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。
- * 未就学児入場不可。

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】

新国立劇場『ウェルテル』2016年公演より 撮影：寺司正彦